



学

藝

令和6年(2024年)8月／第151号

— 特集：総会・講演会 —

祝！角田夏実さん 金メダル



令和6年度総会



講演『教育YouTuberがみなさんに伝えたいこと』
講師 教育YouTuber 葉 一 先生

◇ 巻頭言	理事長として……………理事長 森 富子… 2
	後生長るべし……………副理事長 茅原 直樹… 3
	同窓会活動の活性化を目指して……………副理事長 小川 優… 3
◇ 記念講演	『教育YouTuberがみなさんに伝えたいこと』……………教育YouTuber 葉 一 先生… 4
◇ 総会資料	…総会資料、令和6年度事業計画・収支予算書、令和5年度事業報告・収支決算書、役員等一覧… 8
◇ 令和6年度	理事・部員・監事等名簿……………14
◇ 令和6年度	支部長名簿……………16
◇ 附属学校	研究案内……………17
◇ 本部だより	……………総務部・会計部・研修部・調査部・祝！金メダル・広報部他…18
◇ 総会写真	(会長挨拶・学長挨拶・来賓紹介・理事紹介 他) ……20



理事長として

理事長 森 富子

令和六年六月九日の総会で、東京学芸大学同窓会理事長に再任されました森 富子です。同じく再任された理事、監事の皆様とともに、顧問、参与の皆様とご相談しながら、今年度もしつかりとやっていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

理事長になって 昨年度までに行つたことの報告とこれからのことを述べさせていただきます。

第一は、同窓会の財産の処理です。すでに説明をしていますが、同窓会には、皆様の会費で賄うお財布と今まで先輩方から受けついできたお財布の二つの財産があります。この二つめの財産は、師範学校時代から受け継がれている財産であり、現在の同窓会が使えるものではなく、大学等への寄附か講演会などの公的なものでしか消費することができません。さらにその財産の所有期限があと二年となりました。そこで、ちょうど昨年度は、東京学芸大学が師範学校時代から数えて、創基一五〇周年の年であり、「東京学芸大学創基一五〇周年記念基金」の寄附金を募っていました。この記念すべき年に、東京学芸大学に寄附することにしました。詳しい金額等につきましては、いつもお世話になっていらっしゃる会計士の先生方や、今までの経緯をご存知の元理事長、参与、監事の皆様にご相談申し上げます。決めました。寄附金の使い道として、大学側と相談して一番先に実施したことは、なくなつてしまつた桜の木を復活させる桜基金です。すでにホームページでお知らせした通り、今年の三月に、学長様と一緒に桜の若木を植樹させていただきました。本部棟前には、東京学芸大学同窓会の記念プレートも設置していただきました。大学に来る機会がありましたら、ぜひ見ていただきたいと思ひます。

第二は、同窓会の事業をコロナ禍の前の活動に戻すことです。新型コロナウイルス感染症は、五類感染症に移行され、マスクも強制ではなくなりました。各支部の総会や研究会、懇親会が実施され、私も副理事長も参加しています。研修部は、対面の研修会を実施しています。本学の卒業生だけではなく、どなたでも参加できます。どうぞ、多くの先生方に声をかけていただきたいと思ひます。今年一月に開催した新年祝賀会は、まだ一部感染対策の制限がありました。久しぶりに大勢の皆様と顔を合わせて開催でき、交流を深めることができました。来年の一月は、制限のない開催をしたいと思います。六月の総会の後の懇親会も復活いたしました。久しぶりの懇親会の中で、講師の先生やお客様を交えて、支部の皆様とゆつくり語り合うことができたのは、とてもよかつたと実感しました。

第三は、現在の東京都の教育についての同窓会の役割です。私は現在、東京学芸大学で、学生の教員就職相談、教員採用試験の対策のための指導を行っています。東京都の教育不足につきましては、深刻な状態になっています。そこに同窓会や終身会員の皆様にご協力をいただき、少しでも東京都の教育向上に貢献したいと思ひ、「万ゼミ」という講習会も開催しています。現在の東京学芸大学の学生たちも、教員を目指して、一生懸命学んでいます。教員としての力量があり、自信もあり自覚もあります。同窓会として、心から応援したい事業の一つです。先ほどの同窓会の寄附金の一部から、図書館の一角に、教員採用試験対策に対応できるコーナーの設置と、資料を整える作業もしています。同窓会の皆様のご協力をこれからもよろしくお願ひいたします。

皆様もどうぞ機会がありましたら、現在の東京学芸大学へ足を向けていただければと思ひます。支部の皆様や東京学芸大学のために、少しでもお役に立つことができる同窓会となるように、しつかりと努力して参ります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

後生畏るべし

副理事長 茅 原 直 樹

七月十五日のNHKスペシャルで、二十四歳になったばかりの競泳の池江璃花子さんが特集されていた。

ちょうど十年前、私は二年生の彼女が在学する中学校に校長として着任した。前任の校長からは、「一年生の時から全国大会に出ている生徒がいる。この子は東京オリンピックの有力候補だ。」と伝えられていた。そんなにすごい選手なのか、と感心したが、あまり実感がなかった。しかし、着任するとすぐに、水泳連盟等からジュニアの国際大会への派遣依頼があったり、全国大会レベルの大会で次々に優勝したりと、そのずば抜けた実力と才能を思い知らされることになった。この頃の池江さんは、泳げば中学校記録を塗り替えていた。

三年生になると、今度はジュニアの大会ではなく、正規の日本代表として国際大会にも出場するようになり、日本記録さえ更新するようになった。そうなる、学校にも来られない日が多くなる。楽しみにしていた修学旅行も国体と期間が重なり、参加できなくなつた。それでも国体が終わって帰ってくると、休む間もなく登校した。そして、友達から修学旅行のお土産をもらい、何度もおかわりをしながら給食を食べ、昼休みにはサッカーに興じた。

国外の大会でも帰国するとすぐに登校して、獲得したメダルや記録証を見せてくれた。その際、許可を得

て取ったコピーを校内に掲示した。そして、卒業直前、卒業文集に本人が書いた東京五輪どころか、その前のリオ五輪代表候補になってしまった。

卒業式には、取材依頼が殺到し、会場にカメラを入れることも要求されたが、「卒業式は一人一人が主役であつて、特定の個人が主役なのではない」と丁重にお断りした。その代わり式後短時間、正面玄関前で取材に応じることになった。その時も嫌な顔一つせずに笑顔で対応していた。

四月に入り、正式にオリンピック代表に決まると、翌朝、すぐにその報告に来校してくれた。

十六歳の夏のリオ五輪が終わつた後も同様で、百メートルバタフライ五位入賞の報告に来てくれた。

二〇一八年アジア大会では、十八歳の若さで六冠達成。MVP獲得。誰もが二十歳で迎える東京五輪でのメダルを期待した。翌年一月。

その後の池江さんの六年間の戦いと三大会連続のオリンピック出場。

テレビ画面の中で、大人としてそのことを振り返る池江さんの姿や話ぶり。まさに「後生畏るべし」。

教え子から学ぶというか、こんなに努力している強い人の成長にわず

かばかりでも関わることができた。このことこそ、教職の魅力ではないか。まだまだこの国の若者も、教職も捨てたものではない。

同窓会活動の活性化を目指して

副理事長 小 川 優

副理事長の役割として、担当する支部の総会や懇親会にお招きを受けることがあります。コロナの五輪移行後、その機会は増え、各支部での同窓会活動が本格化してきていることを実感し、とても嬉しくありがたいことだと思えます。支部の会員の方々がお互いの「再会」を喜ばれている姿が心に残りました。自分の支部長時代も思い出し、胸がジーンとして、改めて本部と支部の絆を強めていきたいと気持ちを新たに瞬間でもあります。

さて、コロナ禍を含めたここ数年で、同窓会本部の事業活動でも改革が進んだと感じます。例えば、総務部が進めた支部長会議のオンライン化。定期総会、講演会のライブ配信。広報部が進めた同窓会ホームページの開設と改革。調査部が進めた「管理職等名簿」の同窓会ホームページ上への掲載。研修部が進めた「研修会」の実施や「獅子」「子獅子」の誌面改革。そして、忘れてはならないのが、森理事長と会計部が中心に進めた創基150周年を迎えた東京学芸大学本部への寄付活動です。これによって姿を消した桜の木も新しく植樹されました。大きな寄付によって同窓会の財務構造も大いに改

善し、令和八年までに同窓会の財産をゼロにしていくという大きな課題にも道筋が見えてきました。これらはIT技術をフルに活用した面と地道な足で稼ぐ言わば海戦術的努力の両面があると思います。来年一月の新年祝賀会の開催はその後者の一つと言えるのではないのでしょうか。会議のオンライン化は効率化と遠隔地の支部長も参加しやすいという面で素晴らしいと思います。しかしながら、やはりご来賓と会員同士が直接顔を合わせて集まり、飲食を共にしながら交流を深める新年祝賀会は、捨てがたい魅力と重要性をもっていると思います。二年前の厳しいコロナ禍でも新年祝賀会は対策を講じ、規模を縮小し実施されました。五輪移行後の前回の新年祝賀会は約百名が参加しました。来たる令和七年の新年祝賀会は二百名の参加を目指しています。

支部の活動も総会、懇親会をはじめ、研修会や文化活動等々本格化していくと思えます。本部でも現代に合った効率化を追求しつつ、地道な人の力による定期総会、懇親会、そして新年祝賀会を会員の皆様と共に力強く作り上げて参りたいと考えております。

記念講演

「教育YouTuberがみなさんに伝えたいこと」

講師：教育YouTuber

葉 一 先生



ご紹介いただきました「とある男が授業をしてみた」というユーチューブチャンネルを運営している葉一と申します。普段、講演会をさせてもらう機会もあるのですが、中学生や高校生に向けて話をするのがほとんどですので、今日はとても緊張しています。どのような話をしようか迷ったのですが、今日は中学生や高校生に話す時のスライドをそのまま使ってお話します。その中で、どのような思いをもって子供たちに話しているのかを感じていただけたらと思います。

まず、講演会というものに対する印象について質問させていただきます。皆さんは講演会を「A どちらかというところが好きかな」「B どちらかというところが好きじゃない」のどちらでしようか、手を挙げてください。この会場はAの「好きな方」が多いようです。中学生や高校生、保護者の方向けの講演会で同じ質問をするとBの方が圧倒的に多くなります。先生方への講演会でもBの方が多くなることも少なくありません。かたい話が多いから講演会はつまらない、子供たちからはそういう言葉もよく届きます。私は、そうした講演会の印象を変えたいと思っています。

子供たちには、もう一つ「大人になることが楽しみですか」という質問をします。皆さんにこの質問はできませんが、中学生や高校生にする「楽しみでない」と答える割合の

方が多くなります。それは将来に不安を感じているからというのも理由の一つだと思います。ちなみに、私自身も大人になりたくありませんでした。私の場合、キラキラした大人があまりいなかったことが関係しているように感じています。大人になることをポジティブに捉えられなかったのです。今の子供たちはSNSがあふれる世界で生きづらさを感じています。今がよければいいと思っ

ている子も少なくありません。そのような子供たちに大人になることを少し楽しみになってほしいのです。子供たちに七つの伝えたいことを話す前に余談を一つします。

「長い話は一つだけでいいから持って帰ろう」

まじめでまっすぐな子が増えたように感じます。講演会でいっぱいメモをとっている子もいます。ですが、メモをとることに集中しすぎると、「いっぱい書いたな」「なんとなくいい話だったな」で終わってしまうこともあります。全部を覚える必要はありません。その時間で自分にとってプラスになるもの一つでいいから持って帰ることができたら十分なのだと思っています。

もう一つ、「質問は人のためになる」という話をします。

以前、ユーチューブが開催したアジアのクリエイターの会議に参加させてもらったことがあります。そこで、ユーチューブの代表の話を聞く

場面で、質疑応答がありました。ですが、私も含め日本人のクリエイターは誰も手を挙げませんでした。しかし、インドのクリエイターたちは皆ものすごい勢いで手を挙げて、指名されないと悔しがるほどでした。会議後にグーグルの方に「日本人はその場で質問をしないで後で個別に質問に来る。疑問をもつだけでも素敵なことだが、その疑問を皆に共有することができたら、もつと素敵だと思うんだ」と言われました。会場にいる他の人も同じ疑問をもっているかもしれない。自分が質問をしたら「確かにそれ聞いてみたい」と思う人がいるかもしれない。そう考えると質問することは他の人のためになるのです。ただ、「質問しなきゃダメだぞ」ということを伝えたいのではないです。大切なのは、そういう考え方がること、そして、自分の疑問を大切にしたいということ。人は疑問が解決したときに必ずレベルが上がります。だから、これからも疑問を大切にしてください。

さて、ここで自己紹介をします。私は大学を二〇〇七年に卒業しました。その年は私のクラスの多くが教員採用試験を受けましたが、私は就職活動をして営業職に就きました。企業ではなく一般家庭を訪問する営業です。そうしたのは教員にならなかつたわけではなく、教員になる前に一般社会で厳しい修業をした

かったからです。ドラゴンボールの「精神と時の部屋」のイメージです。本当に厳しい修行で、想像していたより百倍くらいきつかったです。練習、営業、会社に戻って、報告、反省、練習、帰宅しての準備を繰り返す毎日、睡眠時間も短く、体を壊してしまいました。ドクターストップがかかったので、塾講師に転職しました。私自身は子供の頃に学習塾へ通ったことがなかったので、働いてみて初めて、そこにかかる費用の高さを痛感しました。家庭の経済事情で授業の月謝は払えるが、講習会は行けないということもありました。企業として売り上げを上げるのは当然だとは思いますが、ですが、この現状をただただ仕方ないで済ませてしまふことには納得ができませんでした。そこで、子供たちから直接お金をもらわずに教育を届けることはできないかと考え始めました。忙しい日々の中でその答を見付けることは難しいと思います、特にあてもないまま三年間勤めた塾をやめました。そして、二〇一二年五月三十一日に転職となるきっかけに出会います。その日もある方のユーチューブをみていたのですが、「ここに授業動画を投稿したら、子供たちが自分の意思で好きなときに好きなだけ勉強にアクセスできる」と思ったのです。そして、思いついた翌日に最初の授業動画を投稿しています。ひどい授業ですが初

心をお忘れなために残っています。そのようなところからスタートしました。ちなみに、現在、プライベートでは小五と小二の息子たちのパパでもあります。

どんな子供だったかというところ、小学生の時は「スラムダンク」が全盛期で、バスケットボールが大好きな元氣な子でした。ただ、普通の家庭とちよつと違ったのが、妹の存在です。というのも妹は生まれつき障がいがあります。その世話をする母の姿を見て、自分はしっかりしようと考えて過ごしていました。その後、中学校ではいじめを受けました。当時は太っていて、私の体形をいじって笑いをとる教師もいました。そういうこともあり、私は教師が大嫌いになりました。でも、私は東京学芸大学に入りました。それは高校に入ってから素晴らしい先生と出会ったからです。その先生と出会って、教師、世の中、大人、いろいろなものへの見方が変わりました。東京学芸大学への受験も、この先生の助言で決めました。目指すと決めたのは高校二年生の冬くらいで、直近の模試で偏差値が二十程度足りませんでした。そのため、課題の量は鬼のようにありましたし、多くの時間を勉強に費やしました。ですが、憧れの的ができたこと、そしてその憧れの人に支えられたことにより最後まで走り続けることができました。ちなみに自宅は群馬なので、大学時代は片道

ます。その結果も踏まえて、七つのポイントについて話をしていきます。

① それでいい

短所ばかり思いつく子の中には「自分がわるい」と自己否定をする子があります。取り柄のない自分が悪い、周り比べて劣っている自分が悪い。そのように自分を責めてしまいう子も少なくありません。十歳から十四歳の子を対象としたある調査で、「今の自分が好きだ」という問いには七十八・六%が肯定的な回答をし、「自分は役に立たないと強く感じる」という問いには二十四・三%が肯定的な回答をしました。自己を肯定できる子の方が多いですが、自分のことをだめだと思っている子も四人に一人いることを考えなくてははいけません。思春期と言われる多感な時期にはそのような思いになりやすいのです。私もそうでしたから、どういった子でも「そういう風に感じていてもいいのだよ」と思ってもらいたいところから話をスタートさせます。

② 自分の説明書

自分らしく生きてほしい。そのための具体的な自分の説明書を作ってほしいと話します。「やる気が出ない」「すぐ落ち込む」「まわりと比べちゃう」「そうだった時、どうすればよいか。これさえあれば誰にでも効くというベストな答えはありません。答えは人それぞれでいいのです。自分がやる気が出ない時にこうすればうまくいくという自分の答え

が見付かるというのは、自分の説明書のそのページが増えているということ。悩みがぶつかるといって説明書のページを増やすチャンスなのです。それを大きく増やせるのが悩みの多い時期、思春期です。悩むのは辛いし苦しいです。でも、それを自分の説明書のページを増やすチャンスなのだという考え方は是非覚えておいてください。

③ ヒントをもらおう

それらの悩みの解決方法を自分で見付けられなかったらいいですが、それは簡単ではありません。ですから、行き詰まった時にはヒントをもらうようにしましょう。ヒントをもらう相手は誰でも構いません。芸能人、アニメ、本、動画などからもヒントをもらうことができます。「あの人はつらい時、〇〇で考えるのか」「あのアニメの主人公だったらこう思うのではないか」と考え、そのまねをしましょう。さらに「なぜ、そう考えるのか」「なぜ、その行動をとるのか」と「なぜ」を考えることで、その考え方をさらに自分流にアレンジできるようにになります。

まわりと比べて落ち込むことがあります。そのような時は、「相手は地球人じゃねえ 全敗はしていないさ」と考えます。私も他のユーザーと比べて落ち込むことがあります。私よりすごい人はたくさんいます。でも、相手がどんなスーパーマンでも全部の項目で負けているわけでは

ありません。負けている部分ばかりを見ないで、全敗はしていないと考えるます。

ここからは学生にしない話です。今はSNSが発達して、大勢の人と比べることが出来ます。そして、子供たちはそんな世界の中で無意識に誰かと比べています。SNS上の「勉強アカウント」などを見て、「この子は同じ学年なのにこんなに勉強している」と落ち込んでしまいます。昔は比べる相手は芸能人ぐらいでした。私もキラキラしている同世代の芸能人を見てへこんでいた時期がありました。でも、どこかで芸能人だからと割り切っていた自分がいたのです。けれど、今の子どもたちが比べる相手は芸能人ではなく、同じような一般の子なのです。だからこそ、昔の頃のように割り切るのが難しくなっています。でも忘れないで欲しいのです。SNSで発信されているのは相手の得意なこと、つまり、相手の得意なフィールドで比較しているのです。当然負けやすい戦いです。そうやって相手のフィールドでの負けを無意識に繰り返していき、どんどん自己肯定感が下がっていきます。だから、相手の得意分野では負けているけど、全敗はしていないぞという見方の話をします。そういった自分への優しい言葉や励ましの言葉がちゃんと自分に届くようにしよう、それができる状態が、自己肯定感が安定している状態だと思っていて、という話も

④ 自分のルールを破らない

自分の言葉が自分に届くようにするために、自分のルールを破らないことが大切です。自分で決めたことをやり続けるというのは簡単そうで難しいことです。特に、気持ちが悪くなる不安定になると「まあいいか」という顔が悪さをします。疲れたり、へこんだりした時でも踏ん張りましょう。それがどんなに些細なルールであつても自分で決めたことを守り続けられることは小さな自信となって蓄積していくものです。「あんな辛い時期でも踏ん張れた自分はかっこいい」そんな風に振り返ってほしいと願っています。

ここでスライドを使って、ここまでの内容の穴埋め問題を振り返りのテストとして子供たちに答えてもらいます。これは普段の勉強のテクニクでもあるのですが、反復の大切さを自分テストという表現で伝えています。

次に、「あなたは百万人に一人の才能の持ち主ですか」と質問します。たいてい手は挙がりません。では「あなたは百人に一人の才能の持ち主ですか」ときかれたらどうでしょうか。先ほどよりは無理と感じるハードルが下がりますか。自分の得意分野で頑張ったらいけそうな気がする人もいるかもしれません。

⑤ 強みはかけ算でつくる

一つのことでも百万分の一になるこ

とは難しいけれど、百人に一人ならなれるかもしれません。そして、百を三つ掛けると百万になるのです。百分の一の強みを掛け算していくことでより自分のレアリティを上げることがができます。私自身は大した人間ではありません。私より授業の上手な方は数多くいます。けれど、いろいろな強みを掛け算しているからここに呼んでもらっています。中途半端な努力は武器になりません。ちよつと知っているから、ちよつと

うまいからでは強みになりません。努力してエネルギーを注ぐから強みになるのです。私より授業の上手な方は数多くいると思っていますが、百人の中の一位は取れると思っています。それ相應の努力はしてきました。

さて、話が変わって、今ここにやる気になった百人の人がいるとします。この百人の中で〇〇するのが十人、その中でさらに〇〇するのが一人です。〇〇に何が当てはまると思えますか。まず、行動するのが十人です。人は行動に移しません。思いを行動に繋げるだけでも十分の一人になります。そして、継続するのがその中の一人です。あなたの思いを行動に繋げてそれを継続するだけでも百分の一のレアリティになります。結果はすぐに出ません。結果を出すためには継続が大切なのです。

⑥ 継続×説明書Ⅱ武器

継続するために何が必要なのか。

それは先ほどお話しした説明書です。結果が出なくてへこんだ時、どうすればよいかについて、自分の説明書のページがあれば、そこで踏ん張ることがができます。ですから、説明書が大事になるのです。

私のチャンネルは、二〇一二年は新規登録者が百四十五人で総再生数が十萬回、二〇一三年は八十人で二百八十六万回でした。一年七ヶ月で五百本以上の動画を投稿しても登録者は一万人に届きませんでした。その上、この時期が一番誹謗中傷に苦しみました。「教育を汚すな」「こんな授業は必要とされない」、そして、毎日のように「偽善者」と言われる日々でした。届きたい子供たちに届かず、届いてほしくない変な人に届いていました。でも、そこで試行錯誤して耐えることができたから、今も活動を続けることができています。

最後に「はじめと病気から学んだこと」を話します。未来、現在、過去の中で変えられるのはどれでしょう。私は未来と現在だと思っています。現在も小さなことから大きな決断まで選択することがあります。その選択の連続が未来を変えているので変えられると考えています。

⑦ 過去の事実は変えられないが過去の意味は変えられる

はじめを受けたつらい過去がありました。はじめを受けた事実は変えられません。でも、その意味は今の

私を変えられます。あのはじめがあつたから、私は強くも優しくもなれました。生きていければ辛いことはあります。きっと、私も皆さんもこの先も苦しい時間はやってくるでしょう。確かにその瞬間はつらいです。逃げたくなることも諦めたくなることもあるかもしれない。しかし、振り返った時にその意味は自分で選べるのです。事実は変えられませんが、意味は変えられるのです。だから、チャレンジすることを恐れないでください。失敗を怖がらないでください。あなたはあなたが思うほど弱くない。過去の意味を変える力はみんながもっている。私は信じています。

最後に「自分のワクワクを大切に」と伝えます。私の話したいことは「大人になることⅡポジティブ」。「人の話をエネルギーにできる」、「失敗を成功のもとにできる」の三つです。まずは、大人になることをポジティブに思ってください。そのために、私自身がキラキラ楽しんでいる姿を子供たちに見せていきます。次に、人の話からもらえるものがあることです。特にSNSが普及した世の中だからこそ顔と顔を合わせたオフラインの価値を知ってほしいのです。実際に会って、同じ空気だからこそ伝わるもの、言語化が難しいのですが感覚的にその価値は大切にしたと思っています。講演会もその一つです。だからこそ、これからも言葉に思いを乗せて、同じ空間

にいるからこそ伝わるものを感じてもらえるようにしていきます。

そして、失敗は成功のもとにできる、過去の意味は変えられるという話です。今は失敗したら人生の終わりだと考えている子が少なくありません。そこを変えたいのです。炎上という言葉は皆さんもご存知かと思いますが、あれは芸能人や有名人に限ったことではありません。子供たちの身近にも炎上があります。例えば、学校で小さなトラブルが起こると、クラスラインでその子の悪口が飛び交い、その子がいないライングループがつくられます。そして、次の日に登校するとまわりの雰囲気が違う。今の子供たちは、そうした地雷を踏まないように気をつけて生活しています。そうやって正解の受け答えを続けているうちに自分の本心を見失う子もいます。そういった子供たちの現状もお伝えしたくこの話をさせてもらいました。

失敗しないことは無理です。失敗した経験から得られるものが人の魅力をつくる源となっています。失敗した時、その後、どうするかで人生が変わっていくのです。その失敗の経験値は我々、先を生きる者が多く経験してきたことです。だから、その経験を子供たちに還元できるように、私自身もこれからも活動を頑張っていきます。

ここで時間になりました。ご清聴いただき、ありがとうございました。

令和6年度 一般社団法人 東京学芸大学同窓会 総会資料

期 日 令和6年6月9日（日）
 ◆受付 12:30～
 時 程 総 会 13:00～14:00
 講演会 14:15～15:15
 会 場 東京学芸大学 講義棟S410教室
 次 第

【I】 総 会（13:00～14:00）

		<司 会>	総務部長	青 山 直 志
1	開会の辞		副理事長	稲 葉 孝 之
2	理事長挨拶		理 事 長	森 富 子
3	来賓代表挨拶		東京学芸大学学長	國 分 充 様
4	来賓紹介		副理事長	茅 原 直 樹
5	議事録署名人の選出			
6	議事			
	<報告事項>			
(1)	令和6年度 事業計画		副理事長	貝 原 俊 明
(2)	令和6年度 収支予算書		会計部長	關 口 泰 正
(3)	令和6年度 理事・監事紹介		理 事 長	森 富 子
	<審議事項>			
(1)	令和5年度 事業報告		副理事長	貝 原 俊 明
(2)	令和5年度 収支決算報告		会計部長	關 口 泰 正
(3)	令和5年度 監査報告		監 事	石 川 加 子
(4)	その他			
7	退任支部長への謝辞		理 事 長	森 富 子
8	閉会の辞		副理事長	渡 辺 裕 之

【II】 講 演 会（14:15～15:15）

		<司 会>	総務部長	青 山 直 志
	『教育YouTuberがみなさんに伝えたいこと』			
	【講師】教育YouTuber 葉 一 先生 【A類数学科卒業】			
		<謝 辞>	理 事 長	森 富 子

令和6年度 事業計画

【公益事業】

A 研究・研修活動

1 研究活動

(1) 総会後の教育講演会

令和6年6月9日(日) 14:15開会 東京学芸大学講義棟S410教室

演題 『教育YouTuberがみなさんに伝えたいこと』

講師 葉一先生 (A類数学科卒 教育YouTuber)

※YouTubeによる限定ライブ配信実施

(2) 広報誌「學藝」による研究校紹介

令和6年8月第151号、令和6年12月第152号、令和7年3月第153号に研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載

教育情報が得られるよう同窓会ホームページを案内

2 研修活動

(1) 教育管理職等幹部教員育成研修会の開催

① 校長・教育管理職(A・B選考)受験者の論文研修会

・5月19日(日) 9:00～12:00 <新宿区立市谷小> 受講者30名見込み

・6月2日(日) 9:00～12:00 <新宿区立市谷小> 受講者30名見込み

② 面接研修会(校長及びA・B選考一次合格者対象)

・9月8日(日) 9:00～15:00 <新宿区立市谷小> 受講者30名見込み

③ 主任教諭選考受験者対象研修会

・2月1日(土) 15:00～17:00 <新宿区立市谷小> 受講者50名見込み

B 出版活動

1 管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第46集の改訂発行・頒布

令和7年3月予定 1000部

2 若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈

令和6年12月予定 600部

(東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用)

C ホームページ運営

「一般社団法人東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

D 関係団体との連携事業

1 国立大学法人東京学芸大学との連携

(1) 入学式・卒業式への理事長参列

(2) 学生後援会への資金援助(東京学芸大学基金として援助)

(3) 「教職実践演習」への講師派遣

2 「辟雍会」との連携

(1) 副会長、理事への就任

(2) 理事会への出席

(3) ホームカミングデーへの参加

3 その他関係団体との連携

(1) 学校法人竹早学園 竹早教員保育士養成所の卒業式への参列

(2) 東京都一水会等の総会等への出席

【共益事業】

A 運営の充実を図るための事業

1 理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整

2 諸記録の整理保管と財産の適正な管理

B 会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業

1 総会の企画と実施・・・令和6年6月9日(日) 東京学芸大学講義棟S410教室

2 新年祝賀会の企画と運営・・・令和7年1月19日(日) 東京ガーデンパレス

3 能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費(正会員費、賛助会員費、終身会員費)納入の促進

4 令和6年度管理職名簿の作成・配布 令和6年8月に学芸大学同窓会ホームページ上に掲載予定(6月以降に管理職等名簿(仮PDF)を、同窓会ホームページ上に掲載予定)

5 支部活動への役員出席

6 終身会員の勧誘及び支部別組織化

7 広報誌「學藝」での活動の周知

8 ホームページを活用し、同窓会活動を周知

C 支部活動活性化への支援事業

1 支部研修会への講師派遣

2 広報誌「學藝」での支部活動の紹介

3 会員数に応じた支部活動費の給付 (200円×正会員費納入数)

令和6年度 収支予算書

令和6年 4月1日から
令和7年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益事業	寄1	その他会計			事業計	法人会計	内部取引控除	合計
	小計		共益小計	収益事業	その他会計小計				
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産賃貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	5,100,000	0	5,100,000
会費収入 正会員費	0	0	0	0	0	0	3,600,000	0	3,750,000
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,400,000	0	1,400,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	100,000	0	100,000
事業収益	2,278,000	0	0	0	0	2,278,000	0	0	2,278,000
出版頒布「獅子」	2,025,000	0	0	0	0	2,025,000	0	0	2,025,000
出版頒布「子獅子」	13,000	0	0	0	0	13,000	0	0	13,000
論文研修開催収入	120,000	0	0	0	0	120,000	0	0	120,000
面接研修開催収入	120,000	0	0	0	0	120,000	0	0	120,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	500,030	0	500,030	500,030	320	0	500,350
雑収益	0	0	500,030	0	500,030	500,030	320	0	500,350
経常収益計	2,278,000	0	500,030	0	500,030	2,778,030	5,100,320	0	7,878,350
(2) 経常費用									
事業費	4,081,000	500,000	2,771,000	0	2,771,000	7,352,000		0	7,352,000
役員報酬	0	0	50,000	0	50,000	50,000		0	50,000
懇親会費	0	0	1,140,000	0	1,140,000	1,140,000		0	1,140,000
旅費・交通費	135,000	0	87,000	0	87,000	222,000		0	222,000
会議費	70,000	0	400,000	0	400,000	470,000		0	470,000
諸謝金	900,000	0	160,000	0	160,000	1,060,000		0	1,060,000
印刷製本費	2,860,000	0	410,000	0	410,000	3,270,000		0	3,270,000
通信運搬費	26,000	0	85,000	0	85,000	111,000		0	111,000
サイト運営費	80,000	0	0	0	0	80,000		0	80,000
消耗品費	0	0	45,000	0	45,000	45,000		0	45,000
支払寄附金	0	500,000	0	0	0	500,000		0	500,000
調査研究費	0	0	30,000	0	30,000	30,000		0	30,000
渉外費	0	0	150,000	0	150,000	150,000		0	150,000
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	88,000	0	88,000	88,000		0	88,000
雑費	10,000	0	56,000	0	56,000	66,000		0	66,000
管理費							520,000	0	520,000
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							300,000	0	300,000
通信運搬費							0	0	0
消耗品費							0	0	0
印刷製本費							100,000	0	100,000
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							30,000	0	30,000
経常費用計	4,081,000	500,000	2,771,000	0	2,771,000	7,352,000	520,000	0	7,872,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,803,000	△ 500,000	△ 2,270,970	0	△ 2,270,970	△ 4,573,970	4,580,320	0	6,350
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,803,000	△ 500,000	△ 2,270,970	0	△ 2,270,970	△ 4,573,970	4,580,320	0	6,350
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II 当期一般正味財産増減額									6,350
一般正味財産期首残高									28,092,131
一般正味財産期末残高									28,098,481

令和5年度 事業報告

【公益事業】

A 研究・研修活動

1 研究活動

(1) 総会後の教育講演会

令和5年 6月 4日(日) 14:15開会 東京学芸大学講義棟S410教室

演題 学校教育における学際的な学びの実現へ向けて～「うけとめる力」を育むために～』

講師 : 小林 晋平 先生 (東京学芸大学物理学教室 准教授)

※YouTubeによる限定ライブ配信実施

(2) 広報誌「學藝」による研究校紹介

令和5年 8月 第148号、令和5年12月 第149号、令和6年 3月 第150号に

研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載

教育情報が得られるよう同窓会ホームページを案内

2 研修活動

(1) 教育管理職等幹部教員育成研修会の開催

① 校長・教育管理職(A・B選考)受験者の論文研修会

・5月14日(日) 9:00～12:00 <新宿区立市谷小> 8名受講

・6月11日(日) 9:00～12:00 <新宿区立市谷小> 9名受講

② 面接研修会(校長及びA・B選考一次合格者対象)

・9月10日(日) 9:00～15:00 <新宿区立市谷小> 28名受講

③ 主任教諭選考受験者対象研修会

・2月 3日(土) 15:00～17:00 <新宿区立市谷小> 13名受講

B 出版活動

1 管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第45集の改訂発行・頒布

令和6年3月 1000部

2 若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈

令和5年12月 600部

(東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用)

C ホームページ運営

「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

D 関係団体との連携事業

1 国立大学法人東京学芸大学との連携

(1) 入学式・卒業式への理事長参列

(2) 学生後援会への資金援助(東京学芸大学基金として援助)

(3) 「教職実践演習」への講師派遣

2 「辟雍会」との連携

- (1) 副会長、理事への就任
- (2) 理事会への出席
- (3) ホームカミングデーへの参加

3 その他関係団体との連携

- (1) 学校法人竹早学園 竹早教員保育士養成所の卒業式への参列
- (2) 東京都一水会等の総会等への出席

【共益事業】

A 運営の充実を図るための事業

- 1 理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整
- 2 諸記録の整理保管と財産の適正な管理

B 会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業

- 1 総会の企画と実施・・・・・・・・・・令和5年 6月 4日（日） 東京学芸大学講義棟S410教室
- 2 新年祝賀会の企画と運営・・・・・・・・・・令和6年 1月21日（日） 東京ガーデンパレス
- 3 能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費（正会員費、賛助会員費、終身会員費）納入の促進
- 4 令和5年度 管理職名簿の作成・配布 令和5年8月に学芸大学同窓会ホームページ上に掲載（6月以降に管理職等名簿（仮PDF）を、同窓会ホームページ上に掲載）
- 5 支部活動への役員出席
- 6 終身会員の勧誘及び支部別組織化
- 7 広報誌「學藝」での活動の周知
- 8 ホームページを活用し、同窓会活動を周知

C 支部活動活性化への支援事業

- 1 支部研修会への講師派遣
- 2 広報誌「學藝」での支部活動の紹介
- 3 会員数に応じた支部活動費の給付（200円×正会員費納入数）

令和5年度 収支決算書

令和5年 4月1日から
令和6年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	継1	寄1	その他会計			事業計	法人会計	内部取引控除	合計
			共益小計	収益事業	その他会計小計				
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産賃貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	5,096,500	0	5,096,500
会費収入 正会員費	0	0	0	0	0	0	3,628,500	0	3,628,500
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,438,000	0	1,438,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	30,000	0	30,000
事業収益	2,272,400	0	0	0	0	2,272,400	0	0	2,272,400
出版頒布「獅子」	2,010,000	0	0	0	0	2,010,000	0	0	2,010,000
出版頒布「子獅子」	20,400	0	0	0	0	20,400	0	0	20,400
論文研修開催収入	120,000	0	0	0	0	120,000	0	0	120,000
面接研修開催収入	122,000	0	0	0	0	122,000	0	0	122,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	768,097	0	768,097	768,097	267	0	768,364
雑収益	0	0	0	0	0	0	267	0	267
経常収益計	2,272,400	0	768,097	0	768,097	3,040,497	5,096,767	0	8,137,264
(2) 経常費用									
事業費	3,871,239	23,114,546	3,217,494	0	3,217,494	30,203,279		0	30,203,279
役員報酬	0	0	35,000	0	35,000	35,000		0	35,000
懇親会費	30,000	0	1,657,589	0	1,657,589	1,687,589		0	1,687,589
旅費交通費	132,000	0	238,100	0	238,100	370,100		0	370,100
会議費	61,376	0	337,218	0	337,218	398,594		0	398,594
諸謝金	774,028	0	0	0	0	774,028		0	774,028
印刷製本費	2,799,405	0	397,902	0	397,902	3,197,307		0	3,197,307
通信運搬費	7,660	0	100,241	0	100,241	107,901		0	107,901
サイト運営費	66,000	0	0	0	0	66,000		0	66,000
消耗品費	0	0	105,844	0	105,844	105,844		0	105,844
支払寄附金	0	23,114,546	0	0	0	23,114,546		0	23,114,546
調査研究費	0	0	0	0	0	0		0	0
渉外費	0	0	149,500	0	149,500	149,500		0	149,500
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	88,000	0	88,000	88,000		0	88,000
雑費	770	0	38,100	0	38,100	38,870		0	38,870
管理費							345,318	0	345,318
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							235,200	0	235,200
通信運搬費							0	0	0
消耗品費							0	0	0
印刷製本費							0	0	0
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							20,118	0	20,118
経常費用計	3,871,239	23,114,546	3,217,494	0	3,217,494	30,203,279	345,318	0	30,548,597
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,598,839	△ 23,114,546	△ 2,449,397	0	△ 2,449,397	△ 27,162,782	4,751,449	0	△ 22,411,333
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,598,839	△ 23,114,546	△ 2,449,397	0	△ 2,449,397	△ 27,162,782	4,751,449	0	△ 22,411,333
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II 当期一般正味財産増減額									△ 22,411,333
一般正味財産期首残高									28,098,481
一般正味財産期末残高									50,509,814

令和6年度 理事・部員・監事等名簿

令和6年7月現在

1 理事

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	理 事 長	森 富 子	51	A - 理科	東京学芸大学	042-468-3290	042-468-3207
2	副理事長	稲 葉 孝 之	56	A - 保健体育			
3	副理事長	茅 原 直 樹	58	B - 国語	江戸川区立二之江中	3686-2281	3686-2283
4	副理事長	渡 辺 裕 之	59	M - 国語	武蔵野大学	042-468-3290	042-468-3207
5	副理事長	貝 原 俊 明	60	A - 保健体育	町田市立南第四小	042-796-1326	042-795-8759
6	副理事長	小 川 優	59	A - 学校教育	中央区立阪本小	3666-0044	3668-2366
7	総務部長	青 山 直 志	H1	A - 学校教育	練馬区立石神井西小	3929-0022	3929-9050
8	同副部長	織 茂 直 樹	62	A - 社会	東村山市立大岱小	042-391-8191	042-397-5411
9	同副部長	内 木 勉	62	A - 国語	練馬区立光が丘春の風小	3976-5861	5383-3592
10	同副部長	佐 野 篤	H1	A - 学校教育	杉並区立桃井第五小	3390-3188	3390-0229
11	同副部長	山 崎 高 志	H5	C - 特殊教育	港区立本村小	3473-1462	3443-8535
12	会計部長	關 口 泰 正	H8	A - 学校教育	北区立滝野川第三小	3910-7812	5567-4523
13	同副部長	西 澤 尚 子	62	E - 幼稚園	北区立さくらだこども園	3914-8486	3914-8486
14	研修部長	清 水 淳	63	A - 保健体育	町田市立本町田東小	042-722-8193	042-721-1894
15	同副部長	西 田 香	63	A - 理科	渋谷区立笹塚小	3377-2345	3377-2466
16	調査部長	藤 山 由 仁	H11	A - 社会	中央区立月島第一小	3531-7285	3531-2207
17	同副部長	西 谷 秀 幸	H3	A - 社会	板橋区立板橋第五小	3956-8025	5995-8340
18	広報部長	加 納 一 好	59	A - 社会	渋谷区立幡代小	3370-2482	3370-2366
19	同副部長	原 沢 伸 一	62	A - 数学	台東区立平成小	3831-1530	3839-5154

2 部 員

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	総務部員	和 田 万 希 子	62	E - 幼稚園	台東区立石浜橋場こども園	3876-0049	3871-9521
2	総務部員	石 井 正 広	H1	A - 社会	新宿区立四谷小	5369-3776	3341-4343
3	総務部員	熊 倉 勝	63	A - 数学	文京区立明化小	3942-1493	3944-6713
4	総務部員	早 川 修 一	57	D - 音楽	サンチャゴ日本人学校		
5	総務部員	宮 入 祥 郎	63	B - 社会	北区立神谷中	3902-2461	3902-2570
6	総務部員	増 嶋 広 曜	H10	M - 体育	台東区教育委員会	5246-1451	
7	会計部員	田 村 秀 子	57	E - 幼稚園	文京区立第一幼稚園	3811-0072	5689-4520
8	会計部員	青 山 伸 子	H1	E - 幼稚園	港区立港南幼稚園	3471-7347	5796-0566
9	会計部員	中 西 賢	H4	A - 国語	文京区立礪川小	3823-7004	5689-4546
10	会計部員	佐 藤 恵	H5	A - 保健体育	中野区立西中野小	3370-3125	3330-3126
11	会計部員	飯 川 浩 二	H5	A - 社会	江東区立数矢小	3462-0477	3462-5789
12	会計部員	望 月 潔	H1	A - 学校教育	江東区立東雲小	3529-1452	3528-1768
13	研修部員	高 橋 俊 之	61	A - 社会	中野区立鷺宮小	3330-7371	3380-7372
14	研修部員	伊 藤 進	61	A - 理科	葛飾区立花の木小	3609-3333	5699-1372
15	研修部員	田 中 薫 子	62	A - 理科	板橋区立金沢小	3962-2361	5375-5771
16	研修部員	大 橋 美 都 子	62	E - 幼稚園	港区立中之町幼稚園	3405-7245	3401-5814
17	研修部員	薄 井 智 美	62	A - 国語	町田市立町田第六小	042-722-3659	042-721-4730
18	研修部員	井 口 美 由 紀	63	A - 国語	新宿区立市谷小	3266-1603	3266-8078
19	研修部員	佐 藤 友 信	H1	A - 社会	江東区立東陽小	3644-0003	5690-4013
20	研修部員	柿 崎 洋 一	H3	A - 社会	青梅市立第七小	0428-74-5304	0428-74-4738
21	研修部員	丸 節 子	60	A - 美術	町田市教育センター	042-793-2481	042-791-0359
22	研修部員	高 野 康 弘	H3	A - 保健体育	板橋区立上板橋第二小	3956-8111	5995-8346
23	研修部員	加 瀬 幸 司	H2	A - 数学	足立区立中川北小	3620-3831	3620-3832
24	研修部員	大 塚 寿 江	63	A - 学校教育	江東区教育委員会	5662-1621	3674-5874
25	研修部員	石 原 淳	H4	M - 社会	北区立王子第三小	3907-2355	3907-0139

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
26	研修部員	磯 茂 子	63	A - 社会	板橋区立蓮根第二小	3967-2282	3969-8359
27	研修部員	伊 藤 秀 一	62	A - 理科	江戸川区立一之江小	6240-5514	5605-1135
28	研修部員	生 田 目 将	62	B - 数学	多摩市立和田中	042-371-4531	042-337-7650
29	調査部員	加 藤 路 恵	H8	A - 保健体育	杉並区立桃井第四小	3390-3185	3390-4917
30	調査部員	川 越 裕 子	H8	E - 幼稚園	中央区立久松幼稚園	3661-3341	3668-7553
31	調査部員	鈴木健太郎	H10	A - 数学	武蔵野市立第五小	0422-51-2196	0422-55-5036
32	広報部員	米 田 典 子	62	A - 理科	練馬区立仲町小	3932-5369	5920-0332
33	広報部員	荻久保剛正	H6	A - 数学	板橋区立板橋第一小	3961-0100	5375-5760
34	広報部員	入 倉 勝	H5	A - 社会	杉並区立三谷小	3390-0164	3390-0271
35	広報部員	安 藤 良 介	H4	A - 理科	台東区立石浜小	3875-0033	3871-9513

3 監 事

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	監 事	早坂ひとみ	54	A - 国語	江東区教育委員会	3467-9170	5890-6911
2	監 事	伊 藤 隆	52	A - 保健体育	蔵前幼稚園	3851-0040	3861-0013
3	監 事	葛 谷 裕 治	56	A - 数学	五反野幼稚園	3889-7621	3889-7621
4	監 事	石 川 加 子	55	A - 家庭科			
5	監 事	篠 原 敦 子	56	A - 家庭科	教育庁指導部指導企画課		

4 顧 問

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	顧 問	國 分 充			東京学芸大学 (学長)	042-329-7100	042-329-7129
2	顧 問	佐 藤 倫 則	35	乙 - 保健体育			
3	顧 問	安 藤 駿 英	37	甲 - 教育・心理			
4	顧 問	吉 野 尚 也	37	甲 - 保健体育	竹早学園理事長	3577-5973	
5	顧 問	加 藤 正 克	44	A - 保健体育	台東ことぶきこども園	3841-4719	3841-4602
6	顧 問	塩 澤 雄 一	49	A - 学校教育	葛飾区立総合教育センター	5668-7607	5668-7607
7	顧 問	齊 藤 光 一	48	A - 理科	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
8	顧 問	高 橋 武 郎	50	A - 社会	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
9	顧 問	和 田 利 次	53	A - 数学			

5 参 与

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	参 与	岡 村 幸 夫	25Ⅲ	(第三師範)	元大泉会 代表		
2	参 与	溝 江 力	26	乙 - 理科			
3	参 与	森 正 康	29	甲 - 美術			
4	参 与	高 橋 毅	36	甲 - 保健体育			
5	参 与	奥 山 英 男	34	甲 - 社会			
6	参 与	宮 田 澄 江	37	甲 - 国語			
7	参 与	岩 谷 榮 子	38	甲 - 数学			
8	参 与	竹 内 道 義	38	甲 - 保健体育			
9	参 与	原 妃 裳 子	41	甲 - 教育心理			
10	参 与	堀 木 邦 男	43	B - 保健体育			
11	参 与	足 立 善 朗	44	B - 社会			
12	参 与	佐 治 恒 孝	44	D - 保健体育			
13	参 与	市 川 雅 美	47	A - 国語			
14	参 与	島 秀 夫	47	A - 数学			
15	参 与	櫻 井 茂	51	A - 学校教育			
16	参 与	柳 戸 誉 彦			竹早教員保育士養成所		
17	参 与	白 木 信 子	45	A - 保健体育	日本赤十字社東京都支部	5273-6741	
18	参 与	酒 井 晴 夫	46	B - 産業技術			

令和6年度 支部長名簿

令和6年7月現在

NO	支部名	現任校名	支部長名	NO	支部名	現任校名	支部長名
1	千代田	番長小	傳 田 学	33	小金井	本町小	佐 藤 步
2	中 央	月島第三小	鈴 木 潤	34	小 平	小平第十三小	山 倉 尚
3	港	芝浦小	井 田 孝	35	日 野	日野第一小	小 川 真由美
4	新 宿	鶴巻小	佐 藤 弘 明	36	東村山	東萩山小	吉 野 正 人
5	文 京	礪川小	中 西 賢	37	国分寺	第八小	矢 島 英 明
6	台 東	育英幼	川 崎 暁 子	38	国 立	国立第二小	内 田 辰 彦
7	墨 田	第三寺島小	関 口 亮 治	39	福 生	福生第五小	中 島 惠 大
8	江 東	第二亀戸小	飯 川 浩 二	40	狛 江	狛江第六小	辻 勘 助
9	品 川	大原小	隈 部 洋 子	41	東大和	第九小	溝 口 佳 江
10	目 黒	不動小	日 下 勝 豊	42	清 瀬	芝山小	寺 井 俊 敬
11	大 田	東六郷小	須 釜 久美子	43	東久留米	第五小	古 矢 美 雪
12	世田谷	中丸小	橋 口 直 美	44	武蔵村山	雷塚小	高 瀬 隆太郎
13	渋 谷	猿樂小	成 田 弥 生	45	多 摩	北諏訪小	岡 芳 弘
14	中 野	ひがしなかの幼	宮 本 実 利	46	稲 城	稲城第六小	加 藤 正 人
15	杉 並	杉並第十小	塩 練 裕 子	47	羽 村	羽村西小	刀 襦 俊 明
16	豊 島	豊成小	山 本 知 範	48	あきる野	草花小	芝 田 智 昭
17	北	滝野川第四小	鷺 見 二 朗	49	西東京	碧山小	稲 富 泰 輝
18	荒 川	尾久西小	大 野 良 子	50	瑞 穂	教育委員会 指導課	田 中 暁
19	板 橋	志村坂下	松 野 薫 子	51	奥多摩	古里小	藤 田 誠 司
20	練 馬	練馬小	鈴 木 英 明	52	日の出	本宿小	矢 野 明 徳
21	足 立	花畑小	大 塚 信 明	53	檜 原	檜原小	下 川 耕 史
22	葛 飾	末広小	松 本 清 史	54	大 島	つつじ小	稲 葉 真一郎
23	江戸川	東小岩小	佐々木 恵 子	55	新 島	新島小	荒 木 憲 秀
24	八王子	柵田小	平 田 英一郎	56	三 宅	御蔵島小中	広 瀬 京 子
25	立 川	第四小	浅 尾 文	57	八丈・青ヶ島	三根小	川 畑 伊豆海
26	武蔵野	第五小	鈴 木 健太郎	58	小笠原	小笠原中	武 田 悠
27	三 鷹	井口小	五味川 直 季	59	学芸大学	附属小金井小	塚 本 博 則
28	青 梅	河辺小	関 谷 望	60	高等学校	日野高	高 取 克 明
29	府 中	新町小	高 橋 伸 嘉	61	特別支援	村山特別支援	阿 部 智 子
30	昭 島	武蔵野小	大河原 博	62	都 庁	教育庁指導部 義務教育指導課	鈴 木 輝
31	調 布	北ノ台小	野 口 直 也	63	都教セ	企画部企画課	吉 野 早 織
32	町 田	南大谷小	鶴 岡 武 臣				

令和6年度 東京学芸大学 附属学校公開研究会・研究発表会

地区	学校園	名称	開催日
世田谷	附属世田谷小学校	公開研究会	令和7年 1月31日(金)
	附属世田谷中学校	令和6年度公開授業研究会(各教科・プロジェクトチームでの取り組みについて)	令和6年 6月15日(土)
	附属高等学校	第23回公開教育研究大会	令和6年11月30日(土)
小金井	附属幼稚園(小金井園舎)	研究協議会	令和6年 6月14日(金)
	附属小金井小学校	KOGANEI授業セミナー	令和7年 2月 1日(土)
	附属小金井中学校	令和6年度教育研究協議会	令和6年11月22日(金)
大泉	附属大泉小学校	令和6年度研究発表会	令和7年 1月24日(金)
	附属国際中等教育学校	第9回公開研究会	令和6年11月23日(土)
竹早	附属幼稚園(竹早園舎)	2024年度公開研究会「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」(第2年次)	令和7年 1月25日(土)
	附属竹早小学校		
	附属竹早中学校		
東久留米	附属特別支援学校	令和6年度研究協議会	令和7年 1月24日(金)

詳しい情報をご覧になりたい方は、当該校のホームページをご覧ください。

各附属学校の公開研究会・研究発表会の概要

【附属世田谷小学校】

研究主題：「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程

研究開発学校の期間を終え、今年度は教育課程特例校として新カリキュラムの実施をしています。特別活動の時間を異年齢集団であるHomeに、総合的な学習の時間と国語の「話す・聞く」領域をLaboratoryに、各教科をClassとしてこれまでの研究成果を活かしています。

【附属世田谷中学校】

研究主題：「情報活用能力を育むモデル単元の開発 - 資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して -」

情報活用能力の育成を着眼点とした研究に取り組んでいます。副題にもあるように、本校の特徴と研究全体の目標を受け、各教科で育まれる資質・能力を土台としたうえで教科横断の取り組みを検討・実践してきました。

【附属高等学校】

研究主題：「生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント(2) - カリキュラムづくりを見据えた教科融合・連携の試み -」

今年度は「生徒エージェンシーを育む」というキーワードを核にしなが、教科融合・連携にてカリキュラムの改善を図りたいと思います。これまでに教員研修として、教科融合・連携のアイデアを出し合いながら、授業実践について考えて参りました。

【附属幼稚園(小金井園舎)】

研究主題：「幼児教育を語る・伝える保育者 - 保育の可視化の工夫(「Pシート」の活用) -」

幼児教育の現場では、「幼児理解」「遊びの充実」「質の高い保育」などの内容や意義を保護者や地域社会に向けて発信することが求められています。そこで昨年度に引き続き、「幼児教育を語る・伝える保育者」の研究テーマを掲げました。

【附属小金井小学校】

研究主題：学びを創る - 価値を生み出すプロセスに着目して -

昨年度に引き続き「学びを創る」を研究テーマとする。今年度は生成AIの台頭により、人間が価値を生み出すプロセスが奪われかねないことに問題意識をもち、サブテーマを「価値を生み出すプロセスに着目して」とした。

【附属小金井中学校】

研究主題：未定(検討中)

一昨年度は、拡張する学び、真正な学びといった、生徒の学びそのものに注目した研究それらの知見を生かし、学びを包含する探究的な学びを実現するために、5つの今日的な学校課題と複合的に結びつけながら、教育課題研究を推進することとしました。

【附属大泉小学校】

研究主題：来たる世界の中で問題を前に立ち尽くし、そこから一步を踏み出す子供の育成

本校は、本校は令和4年度8月からIBワールドスクールに認定され、PYP(Primary Years Programme)と呼ばれるカリキュラムで日々の子どもの学びをつくっています。その中核となるのが探究ユニットです。

【附属国際中等教育学校】

研究主題：「IB教育の理念に基づく、概念的理解を志向した教科の枠に閉じない学び~現代的諸課題に向き合える生徒の育成」(案)

本校では隔年で公開研究会と授業研究会を開催しています。公開研究会は、本校における教育研究の成果発表の場と位置付けられています。一方、授業研究会は、翌年の公開研究会に向けて課題を見出し、改善するための研究会と位置付けられています。今年度は公開研究会の年です。

【附属幼稚園(竹早園舎) 附属竹早小学校 附属竹早中学校】

研究主題：「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」(第2年次)

本研究は、東京学芸大学の産官学連携プロジェクト「未来の学校 みんなで創ろう。PROJECT」の一環として取り組むものです。本年度は昨年度の「共創」に関する成果をもとに、子どもの主体性を支える手だてに着目して、未来を切り拓く子どもの主体性及びそれに関わる力を育む教師の手立てと主体性を発揮する子どもの姿を研究成果として発表します。

【附属特別支援学校】

研究主題：「生涯発達を支える言語コミュニケーションの支援」

本校では令和5年度より上記主題の実践研究に2年計画で取り組んでおります。2年目となる本年は昨年度に引き続き、新しい時代に求められている能力のひとつである言語コミュニケーション能力に着目し、知的障害児にとってのことばの役割を実践改善の視点として設定して言語活動を充実させ、知的障害児の生涯発達を支える言語コミュニケーション能力を育むことを目的としています。

とある男が授業をしてみた

総務部長 青山 直志

令和六年六月九日(日)、東京学芸大学講義棟S410教室で定期総会を執り行いました。

東京学芸大学学長の國分充様、本学同窓生である全国連合小学校長会会長の植村洋司様、同じく全国高等学校校長協会会長の内田隆志様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。

今年度の記念講演は、やはり同窓生でA類数学科卒の教育ユーザー千葉一(はいち)様でした。二〇二二年六月、「とある男が授業をしてみた」というYouTubeチャンネルを開設、丁寧な板書と分かりやすい言葉運びで人気を博します。特に、新型コロナウイルスによる一斉休校で、授業が受けられない状況が続いていたとき、その授業動画は世代を超えて話題となり、TBS系の番組「情熱大陸」でも取り上げられました。そこで、私たち役員は葉一様の記念講演へのご登壇を切望し、三年越しにそれが実った次第です。これからの教育を考える上で大変参考になる貴重なお話です。是非、総会ライブ編集版からご視聴ください。



↑総会等ライブ



↑アンケート

会費納入のお願い

会計部長 關口 泰正

各支部長の皆様をはじめ、会員の皆様には、毎年会費納入に御協力をいただき、ありがとうございます。昨年度は、二千四百十九名の正会員の皆様に会費を納入いただきました。管理職の皆様にはさらに賛助会員費、また、終身会員の皆様にも会費を納入いただきました。ありがとうございます。

会計部では皆様から納入いただいた会費を同窓会の各部(総務部・研修部・調査部・広報部)が円滑な運営に役立てられるよう、金銭面での管理の徹底を今年度も図って参ります。

東京学芸大学同窓会が「一般社団法人」として公益に資する活動が充実するよう、会費の有効活用に向けて公正な会計処理を行って参ります。

今年度の予算編成、昨年度の決算につきましましては、六月九日の総会でご承認いただき、その内容は、本号にも記載されておりましてご確認いただければと思います。

支部長の皆様を通じて「会費納入のお願い」を既に各支部送付いたしました。ご多用のことと存じますが、会計担当と連絡をとっていただき、九月末日までの会費納入に、ぜひ、ご協力いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

研修部諸活動へのご協力をお願いします

研修部長 清水 淳

本年度も、会員の方々の自己研鑽の一助となるべく、研修部員一同、力を尽くしてまいります。同窓会の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。研修会は「獅子」の表紙裏に掲載されているとおり開催しております。QRコードにてお申込みください。

◆論文研修会報告

校園長選考、AB選考のための研修を実施いたしました。五月十九日、六月二日、両日とも十名の参加でした。

◆面接研修会の実施

九月八日・新宿区立市谷小学校にて開催いたします。昨年は約三十名の研修生が参加しました。今年度も同様の人数が予想されるため、研修部員他、同窓の校長先生方へ、研修部から協力の依頼のファクシミリを送付しております。多数の御協力をお願いします。

◆主任教諭選考論文研修会

令和七年二月一日・新宿区立市谷小学校にて開催いたします。昨年度は、十三名の研修生が参加しました。今年度は、研修会後、三月末までに二回の添削指導をしてまいります。

◆研修テキスト

「獅子」「子獅子」の編集と配布を行っております。どちらもA4版で本棚に収めやすく、内容も好評をいただいております。最新の国や都の教育課題についても記載され、管理職やこれから学校支えていこうとする方にとって必携の一冊と考えております。今年度も三月下旬を目途に、各支部の支部長校宛に配布させていただきます。

「管理職等名簿」の作成方法について

調査部長 藤山 由仁

調査部長の中央区立月島第一小学校の藤山でございます。名簿作成に当たっては、毎年、多くの会員の皆様との御協力をいただいております。

一昨年度から、「管理職等名簿」は東京学芸大学同窓会のホームページ上に掲載しております。

現在、初版にあたる「仮PDF名簿」をホームページ上に掲載しております。これを各支部等で御確認していただいた上で、修正作業を行い「完成版PDF名簿」を八月中旬に掲載する予定です。

各支部におかれましては再度、名簿内容を御確認の上、加除訂正が必要な場合は調査部長藤山まで、ファクシミリ、メール等でお知らせください。方法の詳細はホームページ上の文書をご覧ください。

なお、管理職名簿は個人情報であり、ID、パスワードを設定し同窓会会員のみが閲覧できるようにしております。ID、パスワードは各支部長様にお伝えしております。また、終身会員の皆様にも各支部を通してその旨お伝えいただければ幸いです。終身会員の皆様は所属していた支部と連絡をお取りいただくようお願い申し上げます。

祝！ 角田夏実さん 金メダル獲得

本学の卒業生の角田夏実さんがパリで開催されたオリンピック競技大会の柔道（女子48キログラム級）で、見事、金メダルを獲得しました。この金メダルはパリオリンピックでの日本人第1号であるとともにオリンピック通算500個目の記念すべきメダルとなりました。

角田さんは2015年に本学の教育支援系（生涯スポーツ）を卒業しました。同窓生、皆で祝福したいと思います。おめでとうございます！

快調！新ホームページ

広報部長 加納 一好

広報部では年三回の「學藝」の発行とホームページの運営を行っています。

「學藝」は大学との連携を意識して編集しています。今号は附属学校の研究発表会をご案内しました。引き続きサークル等の活動紹介も載せてまいります。今後も現在の東京学芸大学のことや現役学生の活躍が少しでも分かるように紙面を工夫してまいります。お楽しみに。

ホームページも大きく変わりました。事務局で直接アップできるようにしたので即時性が増しました。支部長会の資料も会議に合うよう余裕をもって掲載しています。様々な情報を迅速に会員の皆様に提供することができます。研究発表会の案内も特集していきます。研究発表会の案内ができましたら、ぜひ広報部にお送りください。その他、掲載したいことがありましたら、遠慮なくお申し出ください。

発行が待ち遠しい「學藝」、毎日チェックしたくなるホームページを目指します。

今年度も、各支部、会員の皆様にはご協力いただくことが多々あります。どうぞよろしくお願いいたします。

◎副理事長の担当支部

稲葉孝之副理事長

中野、杉並、練馬、昭島、町田、
狛江、多摩、羽村、あきる野、奥多摩、学芸大（十一地区）

渡辺裕之副理事長

千代田、中央、大田、渋谷、足立、
葛飾、府中、日野、東久留米、西東京、瑞穂、都庁（十二地区）

茅原直樹副理事長

豊島、北、荒川、江戸川、青梅、
小平、東村山、国分寺、福生、清瀬、高等学校（十一地区）

貝原俊明副理事長

文京、台東、墨田、江東、品川、
八王子、立川、三鷹、調布、国立、
檜原、特別支援学校（十二地区）

小川 優副理事長

港、新宿、目黒、世田谷、板橋、
武蔵野、小金井、東大和、武蔵村山、
稲城、日の出、島嶼（十二地区）

◎副理事長の担当部

稲葉孝之副理事長・総務部

渡辺裕之副理事長・総務部・広報部

茅原直樹副理事長・会計部

貝原俊明副理事長・研修部

小川 優副理事長・調査部

◇ 編集後記 ◇

本号を編集集中にビッグニュースが飛び込んできました。パリオリンピック女子柔道四十八キログラム級で本学卒業生の角田夏実さんが見事金メダルを獲得しました。パリオリンピックでの日本人金メダル第一号です。急遽、枠をつくりました。

その他、今号では総会の報告、教育ユーチューバー葉一さんの素晴らしい講演をまとめました。ユーチューブアーカイブもありますので、こちらで全編ご視聴いただけます。

また、久しぶりに開催された総会後の懇親会の様子も掲載しました。懇親会の雰囲気の皆様にも少しでもお伝えできれば幸いです。

（広報部長 加納一好）

学藝 第一五一号

発行 令和六年八月

東京学芸大学同窓会理事長

森 富子

東京都文京区小石川四の二の二十
電話〇三（三八一）七二五二（代）

印刷 日本ハイコム株式会社

東京都文京区関口一の十九の二
電話〇三（三三三五）四四四一

令和6年度 同窓会総会・懇親会



森理事長ご挨拶



国分学長ご挨拶



来賓紹介



懇親会



乾杯



支部紹介